

津波から人命を守るために：計画・訓練両面からの実践的取組

- ◆ 津波から避難するための地域における避難計画策定の支援を重ねてきました。
- ◆ 避難時の行動を実践する場である津波避難訓練も、企画・実施・調査を重ね、さまざまな課題に対応する訓練プログラムの構築に取り組んでいます。
- ◆ これら両面からの取り組みを通じて、津波避難の知識の普及や、避難時のルールの具体化など、被災地域における津波避難対策の再構築に取り組んできました。

地域ごとの津波避難計画

- ◆ 避難する住民の主体的な参加と議論を通じた検討から、その地域における避難ルールの明確化や、自助・共助の取組方法を考え共有することを目指しています。

【仙台市でのワークショップ】

- ・テーブルを囲んでのグループ討議・作業を通じて、津波避難時の行動ルール（避難目標時間・避難の手段・車の利用方法・非常持出品等）を議論し、住民とともに考えてきました。
- ・地図を使った作業では、避難場所や徒歩・車の避難ルートを町内会等の単位で検討してきました。



【気仙沼市での連続ワークショップ】

- ・1地域あたり3～4回のワークショップを通じて議論を重ねる手法を行政と検討し、実践してきました。
- ①体験談の共有：震災当時の避難行動を、一人ずつ聞き取り共有
- ②現時点の津波避難マップの検討（避難場所、避難経路、地域独自の避難場所、など）
- ③地域における避難ルールの検討
 - 避難目標地点までの「避難の目標時間」
 - 地域での声がけルール
 - 非常持出品の準備
 - 車による避難のルール
 - 避難行動要支援者の支援方法 など
- ④タウンウォッチング（まちあるき）・避難経路確認
- ⑤避難訓練の実施と、計画の点検・見直し
- ・地域住民が議論した情報や意見は、マップにまとめられて、整理と修正を重ねて、今後行政から住民に配布されることになっています。



地域課題に対応した津波避難訓練

- ◆ 津波からの避難は、それぞれの地域で多様な課題を抱えています。例えば、
 - ・高台がない平野部の地域
 - ・観光客など地理に不案内で情報や誘導を必要とする避難者が多い地域
 - ・高齢者や障害のある方など避難行動に支援を要する方への支援方法 など。それらの課題のテーマに対応した津波避難訓練の開発・実践に取り組んできました。

【岩沼市での津波避難訓練】

- ・平野部が続く岩沼市東部地区では、津波避難ビルに相当する地域内の建物（学校校舎）を活用したり、仙台東部道路（盛り土区間）に設置された避難階段、河川堤防や橋など周囲よりも高い場所を一時活用することで、徒歩などの手段で各地域から避難できるよう計画し、訓練で実践・確認しています（これまで3カ年実施、ともに実施・調査を支援してきました）。



【山元町での津波避難訓練】

- ・高台まで距離のある同町では、車を活用した津波避難を計画し、多くの住民や復興工事に関わる建設現場などから車で避難する訓練に取り組みました。訓練当日にヘリコプターから撮影された動画や、現地で記録された避難状況を分析し、交通集中のあった交差点で発生した渋滞が避難を遅らせたことなどを明らかにしました。



【津波防災アクション「カケアガレ！日本」による避難プログラム開発（産官学連携）】

- ・多様な避難課題に対応した避難訓練を企画するための訓練プログラムの開発に産官学連携で取り組んでいます（復興庁「新しい東北」先導モデル事業に採択）。

さらなる津波避難対策の充実のために

津波避難に関する計画(P)・訓練(D)・評価(C)・次のアクション(A)を、対策に取り組む地域がPDCAサイクルのように自ら取り組むことができるよう、評価やアクションの方策についても引き続き検討していきます。また、当研究部門が取り組んできた津波ハザード評価やマップの技術を応用した発展活用に取り組めます。

